

総合的な学習の時間学習指導案

指導者 藤原 広貴

- 1 日 時 令和3年9月16日(木) 第5校時
- 2 場 所 5年生教室
- 3 学 年 第5学年 男子3名 女子6名 計9名
- 4 単元名 「誰もが暮らしやすい町～優しい・穏やか・温かい・笑顔・快適な町に～」
- 5 単元について

○児童観

本学級の児童は、4年時の総合的な学習の時間において、「神石高原町の見所」について、来見地区の観光地について調べるなどの地域学習に取り組んできた。

児童は、総合的な学習の時間では、「お年寄りや子ども達がどんなところに困り感を感じているのか。」「困り感を無くし暮らしやすい町にするにはどうすればいいのか。」「どうすればお年寄りに元気を届けることができるだろう。」と常に課題を意識しながら意欲的に学習に取り組んでいる。

また、国語科の「調べたことを正確に報告しよう」という学習で、みんなが過ごしやすい場所になるような工夫を見つけて調べ、まとめ、報告する学習もしてきている。

本学級の児童に、総合的な学習の時間についてのアンケートを行ったところ、結果は次の通りとなった。

		よくあ てはま る	あて はま る	ややあ てはま る	あては まらな い
1	身の回りのものやできごとから自分が調べてみたいことをみつめています。	1	3	2	1
2	地域の方のために自分にできることを考えています。	1	2	3	1
3	友達や、地域の人がもっている悩みを解決したり、願いをかなえてあげたりしたいと思います。	2	3	0	2
4	解決しようとする課題について何をすればよいのか、何が使えるかを考えることができます。	2	2	2	1
5	課題を解決するために、進んで資料を集めたり取材をしたりしています。	1	2	2	2
6	課題を解決するためのものを集める前に、どのような方法だと必要なものを集めることができるのかを考えています。	2	2	2	1
7	たくさんの資料から、さまざまなものを集めることができます。	5	2	0	0
8	集めたことから、ひとつようなことを選んで、調べたことをまとめることができます。	3	3	0	1
9	調べて分かったことを、分かりやすい方法(図, グラフ, 表など)を考えてまとめています。	3	3	0	1
10	調べたことを比べたり、仲間分けしたりして何が分かるのかを考えています。	3	1	2	1
11	友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしています。	3	2	2	0
12	発表する相手を考えて、自分の考えとその理由を明らかにして、分かりやすく伝えるように発表を工夫しています。	3	2	2	0
13	自分の考えを進んで伝えていきます。	3	1	1	2
14	友達と話し合う時、お互いが納得のいく考えをつくらうとしています。	3	2	2	0
15	学習の振り返りをするときには、「どこまで分かったか。」「学習方法でうまくいったことや失敗したことなどの理由」を考えています。	2	3	0	1
16	学習の振り返りをするときには、「もっと考えてみたいこと」「もっと調べてみたいこと」「もっと工夫してみたいこと」などを考えています。	4	1	1	1

アンケートの結果から、概ね肯定的な評価をする児童が多い中、「地域の方のために自分たちにできることを考えています。」の項目において否定的な評価をする児童が多かったが、指導者としては、地域の方のために自分達にできることを考えているように捉えていた。しかし、児童は課題を見つけることはできるが、そこから自分達にどのようなことができるのか考えることができている実態がある。さらに「自分の考えを進んで伝えています。」の項目においても否定的な評価をする児童が多かった。授業の中で総合的な学習の時間が嫌いだと考える児童もいるため、自分の意見を積極的に伝えようとする実態がある。それは福祉に対する興味が無かったり、自分の考えに自信をもつことができなかつたりすることが原因だと思われる。また、意見は言えるが立って発表という形になると黙り込んでしまう児童が多い。そのため一人一人の考えを大切に、先生対児童のやりとりにならないように、クラス全体に考えを広げていきたい。また、「たくさんの資料から様々なものを集めることができます。」「発表する相手を考えて、自分の考えとその理由を明らかにして、分かりやすく伝わるように発表を工夫しています。」の項目において肯定的な評価をする児童が多かった。児童は、総合的な学習の時間以外でも調べ学習をする際は、インターネットや本を活用したり、お家の人にインタビューをしたり、お年寄りの実態を調べるためにアンケートをとったりするなどして多様な方法で情報を収集することができる。また、タブレットの活用も前年度からの働きかけもあり、調べたことを Jamboard で整理したり、パワーポイントで発表資料を作成したりするなど、意欲的に活用することができる。

単元の初めに「暮らしやすい町」「暮らしにくい町」と二つの視点で意見を出させ、自分達の住んでいる神石高原町は、暮らしやすいのか暮らしにくいのかを考えさせた。ほとんどの児童が「暮らしにくい町」だと考えた。

その後「高齢者」「大人（親世代）」「子ども（0～6歳児）」の3つの視点から高齢者や大人や子どもが抱えている困り感について考え、だれもが暮らしやすい町にするために自分達にできることは何なのか考えている。

1学期「高齢者」の視点で学習した際に児童は、アンケートを使って情報収集を行った。それを基に整理・分析する中で児童は、腰が痛くなるなどの困り感に気付いたり、割引券が手に入る、孫の成長が楽しみになってくるなどの高齢者になってからの楽しみに気付いたりすることができた。そこからシトラスリボンやクッション、メッセージ付きのキーホルダーなどの小物を作り、おじいちゃんおばあちゃんに元気を届けようと計画し実行してきている。

○単元観

本校の地域は、店舗や病院などは少なく、利用するためには、車での移動が必須である。また、地域には老人ホームや福祉施設などはあるが、子ども達との交流は少なく、福祉に関する知識を児童が日頃持つということは、ほぼないという現状である。

本単元では、児童一人一人が福祉を身近なこととして捉え、誰もが幸せに暮らせるために自分達ができることは何かということをも自分自身に問いながら課題解決学習を進めていく。そのために福祉に関わる方や、障がいのある方の話を聞いたり、疑似体験を行ったりする中から、感じたことや疑問を出し合い、お互いの考えを交流し、福祉や障がいに関する理解を深めていくとともに、困り感に気づき、「誰もが暮らしやすい町」に近づけるために自分達ができることはどんなことかを考え、それらを実践に移すことをねらいとしている。

○指導観

身近な地域の中で探究活動を行うことにより、自分達の住む地域では、すべての人が生活しやすい環境づくりのために様々な工夫がなされていること、もっと工夫すべきことや自分達にもできることがあることに気付かせ、自分にできることを考えることにより成長を感じ、自分に自信をもつことができるようにしていく。

そして、インタビューや交流活動など、いろいろな人とふれあう体験とともに、高齢者疑似体験や車椅

子体験やアイマスク体験、点字体験などを多く取り入れ、相手の気持ちを実感させるようにしていきたい。さらに交流を通して「障がい」や「障がい者」に対して関心をもたせると同時に障がい者の苦勞や願いを感じ取りながら福祉に対する意識を高め、様々な立場の人が共に生活していることに気付かせていく。

指導に当たっては、自分の意見を積極的に発表しようとする児童が少ないため交流しやすい環境を作る。Jamboard を活用し、疑似体験を通して「感じたこと」や「疑問に思ったこと」を交流していく。また、視点を障がいのある方だけではなく、障がいのある方をサポートする介助者の方にも目を向けることができるように「助かったこと」についても交流をしていく。そこから障がいのある方に対する理解を深め、自分達が障がいのある方のために何かできるのではないかという考えをもって実際に行動できるように取り組んでいきたい。

また、福祉に対する興味関心をもたせるために体験学習やふれあい学習を行っていく。体験したり直接ふれあったりすることを通して、児童はいろいろなことを発見したり新たな疑問をもったりするのではないかと考える。福祉に関する興味関心を高めるとともに疑問に思ったことをさらに探究し、自分達にできることを考え行動し、できるだけ多くの人に伝えるというゴールに向かって探究的な学習が展開していくようにしていきたい。また、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」「実行」「振り返り」の過程が一つ一つ途切れてしまうのではなく、何のためにするのか活動のめあてをはっきりともたせ、具体的なゴールイメージを明らかにし、学習がスパイラルに展開していくようにしていく。それにより、児童の活動が主体的なものとなるようにしていく。

6 単元の目標

○神石高原町の子ども達や高齢者、障がいのある方の困り感を考え、地域の人たちにインタビューをしたり疑似体験をしたりすることを通して、福祉の意味や地域の現状、高齢者や障がいのある人の思いや願いを理解するとともに、自分の課題を見つけ、課題解決のために必要な知識・技能を身につけ、課題解決に向けて自分達にできることはないか考え、実践していくことができる。

7 本校で育てようとする資質・能力

課題発見力	課題設定し、解決する方法を考えている。
課題解決力	よりよい考えを検討し、自分の言葉でまとめている。
振り返り力	学んだことを自己の生き方につなげて振り返っている。

8 単元の評価規準

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		課題発見力・課題解決力	振り返り力
単元の評価規準	<p>① 誰もが暮らしやすい町の実現にむけ、多様な問題の解決には、人や組織と目的を共有して取り組むことが必要であることを理解している。</p> <p>② 地域の現状や人々の思いや願いを捉えるための調査を、対象に応じた適切な方法で実施している。</p> <p>③ 神石高原町を暮らしやすい町にすることと自分達との関わりについての理解は、探究的に学習していることの成果であることに気付いている。</p>	<p>① 神石高原町の子ども達や高齢者、障がいのある方の困り感から課題を設定し、解決する方法を考えている。(課題発見力)</p> <p>② 神石高原町の子ども達や高齢者、障がいのある方の現状を捉えるために必要な情報について多様な方法の中から効果的な手段を選択している。</p> <p>③ 収集した情報を比較・分類することで「だれもが暮らしやすい町」につながるものとして整理しながら、解決に向けて考えている。</p> <p>④ 「だれもが暮らしやすい町」づくりにつなげるための活動についてよりよい考えを検討し、自分の言葉でまとめている。(課題解決力)</p>	<p>① 疑似体験やインタビューなどの調べ学習の振り返りを通して、自ら設定した課題の価値に気付き、自分の意思で探究的な活動に取り組もうとしている。</p> <p>② 福祉の観点から「だれもが暮らしやすい町」の実現に向けて自他の考えを生かしながら協働して取り組もうとしている。</p> <p>③ 神石高原町の小さな子どもや高齢者、障がいのある方とともによりよく生きるために学んだことを自己の生き方とつなげて振り返っている。(振り返り力)</p>

9 単元におけるルーブリック (思考・判断・表現④)

A	B	C
「だれもが暮らしやすい町」づくりにつなげるための活動についてよりよい考えを検討し、相手や目的に応じて効果的な表現をしている。	「だれもが暮らしやすい町」づくりにつなげるための活動についてよりよい考えを検討し、自分の言葉でまとめている。	「だれもが暮らしやすい町」づくりにつなげるための活動についてよりよい考えを検討し、自分の言葉でまとめることができない。

10 学習過程ごとの主な学習活動と評価規準 (全50時間)

	学習過程ごとの主な学習活動	評価規準
一学期	<p>【課題設定】</p> <p>○単元の課題設定をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神石高原町は「暮らしやすい町」か「暮らしにくい町」か考える。 ・誰もが暮らしやすい町の「誰もが」とは誰のことを指すのか視点を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の現状や人々の思いや願いを捉えるための調査を、対象に応じた適切な方法で実施している。

一 学 期	<p>○視点ごとにどんなものがあれば暮らしやすい町に近づけることができるか考える。</p> <p>年間テーマ</p>	
	<div data-bbox="252 293 1241 365" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">誰もが暮らしやすい町～優しい・穏やか・温かい・笑顔・快適な町に～</div> <p>1 学期【課題設定 1】</p> <div data-bbox="268 421 954 479" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">お年寄りが暮らしやすい町ってどんな町かな</div> <p>【情報収集 1】</p> <p>○設定した課題について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分達が思い描いている高齢者について出し合う。 ・高齢者にとって暮らしやすい町となっているのか考える。 ・高齢者や神石高原町についてインターネットや本などを活用して調べる。 <p>【整理分析 1】</p> <p>○収集した情報を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べたことを整理してまとめる。 <p>【まとめ・表現 1】</p> <p>○調べたことをグループ毎にまとめて発表をする。</p> <p>【課題設定 2】</p> <p>高齢者の方の実際を知る。</p> <p>○高齢者の方の実際を知るための方法を考える。（アンケート，インタビュー等）</p> <p>【情報収集 2】</p> <p>○アンケート，インタビューなどの方法で情報を収集する。</p> <p>【整理・分析 2】</p> <p>○高齢者の実態について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集めた情報から「困り感」や「楽しみ」についてまとめていく。 <p>【まとめ・表現 2】</p> <p>○集めた情報から高齢者の実態を知り，自分達にできそうなことを考える。（DVD 製作・歌を届ける・小物作り・手紙を届ける 等）</p> <p>○自分達にできそうなことを実行にうつす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・神石高原町の子ども達や高齢者，障がいのある方の困り感から課題を設定し，解決する方法を考えている。 ・収集した情報を比較・分類することで「だれもが暮らしやすい町」につながるものとして整理しながら，解決に向けて考えている。 ・神石高原町の子ども達や高齢者，障がいのある方の現状を捉えるために必要な情報について多様な方法の中から効果的な手段を選択している。 ・「だれもが暮らしやすい町」づくりにつなげるための活動についてよりよい考えを検討し，自分の言葉でまとめている。
二 学 期	<p>【課題設定 3】</p> <p>○スロープなどのバリアフリーにふれ高齢者のためだけでなく障がい者のためにあるものであることに気付く。</p> <p>2 学期【課題】</p> <div data-bbox="236 2011 1002 2069" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">障がいのある人が暮らしやすい町ってどんな町かな</div>	

<p>二 学 期</p>	<p>【情報収集3】 【整理・分析3】</p> <p>○自分達が思い描いている「障がい」のイメージを自由に発表させる。</p> <p>○インターネットや本を活用して「障がい」について調べる。</p> <p>○分かったことから暮らしやすさにつながりそうなことを考える。</p> <p>○障がい者疑似体験を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 障がい者疑似体験を通して考えたことをグループ毎に交流し、障害に関する理解を深める。 <p>○神石高原町に住んでいる障がいのある方をゲストティーチャーとして招いて実生活、体験談について聞かせてもらい、理解を深める。</p> <p>○まとめたことを発表する。疑似体験や話を聞いたたりすることを通して考えたことを交流し、自分達が初めに思い描いていた「障がい」のイメージとのずれに気付かせる。</p> <p>【まとめ・表現3】</p> <p>○発表会の準備・練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 分かりやすく伝える方法を考える。 伝え方を考えながら、役割分担をするなどして協力しながら練習する。 <p>○学習発表会で発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 神石高原町の子ども達や高齢者、障がいのある方の現状を捉えるために必要な情報について多様な方法の中から効果的な手段を選択している。 疑似体験やインタビューなどの調べ学習の振り返りを通して、自ら設定した課題の価値に気付き、自分の意思で探究的な活動に取り組もうとしている。 収集した情報を比較・分類することで「だれもが暮らしやすい町」につながるものとして整理しながら、解決に向けて考えている。 福祉の観点から「だれもが暮らしやすい町」の実現に向けて自他の考えを生かしながら協働して取り組もうとしている。 地域の現状や人々の思いや願いを捉えるための調査を、対象に応じた適切な方法で実施している。
<p>三 学 期</p>	<p>3学期 【課題】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>誰もが暮らしやすい町にするために自分達ができそうなことを実行しよう。</p> </div> <p>【情報収集4】</p> <p>○「だれに」「どんなものを」「何のために」実行しようとしているのか確認をする。</p> <p>○考えたことを実行する。</p> <p>【まとめ・表現】</p> <p>○自分たちで考えた内容や方法で考えたことを実行にうつしていく。</p> <p>○これまでの学習をふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ポートフォリオしていたものを振り返りながら、気付いたことや思ったことをまとめ、自分と社会との事象の結びつきを考えたり学んだことをどのように活かしてい 	<ul style="list-style-type: none"> 誰もが暮らしやすい町の実現にむけ、多様な問題の解決には、人や組織と目的を共有して取り組むことが必要であることを理解している。 神石高原町を暮らしやすい町にすることと自分達との関わりについての理解は、探究的に学習していることの成果であることに気付いている。 神石高原町の小さな子どもや高齢者、障がいのある方とともによりよく生きるために学んだことを自己の生き方と

<p>たいか考えたりしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ついた力や成長したことなど、自己肯定感を感じられる振り返りをする。 ・お世話になった方にお礼の手紙を書く。 	<p>つなげて振り返っている。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------

1 1 本時の学習

(1) 本時の目標

調べて新たに分かったことを交流することにより、障がいに対する理解をさらに深め、どうすることが暮らしやすさにつながるのか考えることができる。

(2) 本時の評価規準

グループ毎に障がい者について詳しく分かったことを交流することで障がいに対する理解を深め、どうすることが暮らしやすさにつながるのか考えている。

(4) 準備物

[指導者] 電子黒板 [児童] タブレット

(5) 学習の展開

学習活動	指導上の留意事項	評価規準および
<p>1 めあてを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習が本単元のどの辺りなのかを確認し、見通しを持たせる。 	
<p>調べて分かったことを交流し、どうすれば暮らしやすくなるのか考えよう。</p>		
<p>2 今日の学習の流れを確認する。</p>	<p>① 調べて分かったことを発表 ② どうすれば暮らしやすい町になるか考える ③ 振り返り</p>	
<p>3 Jamboardを使いながら自分たちが調べたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある方のために家にエレベーターを設置する家庭もあることに驚いた。 ・視覚障がいを患う人の男女比は男性の方が多いことが分かった。 ・坂を下りる時は、車いすを後ろ向きにして下りることを初めて知ったな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「車椅子」「視覚障がい」のグループに分かれて調べて「新たに分かったこと」や「新たな疑問」などを交流する。 ・他グループの発表を聞いて気付いたことや質問をさせる。 	
<p>4 どうすれば暮らしやすさにつながるか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校にエレベーターがあるといいなあ ・みんながそういうことを知らないといけないな。 ・気軽に声をかけ合える雰囲気があるな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いきなり「町」に視点を向けて考えさせるのではなく、「学校」や「家」など身近な場所から暮らしやすさにつながることを考えさせる。 ・ワークシートを使ってどうすることが暮らしやすさにつながるのか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ毎に調べて新たに分かったことを交流することで障がいに対する理解を深め、どうすることが暮らしやす
<p>5 考えたことを発表する。</p>		

<ul style="list-style-type: none"> ・学校に点字をもっと増やす必要があると思う。 ・点字をもっと増やす必要があるかな？ ・どんな声かけをしたらいいのかな？ <p>6 ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日考えた「暮らしやすさにつながること」を聞いてみたいな。 <p>7 次時の学習の予告</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発表を聞いて、質問をしたり自分の考えを発表したりさせる。 <p>・本時の学習をふりかえり、自己評価をする。</p> <p>・次の課題を考え、次時からの見通しを立てておく。</p>	<p>すさにつながるのか考えている。（発言・ワークシート）</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------

12 板書計画

めあて

調べて分かったことを交流して
どうすれば暮らしやすくなるのか考えよう。

「暮らしやすさ」につながりそうなこと

学習の流れ


- ① 調べて分かったことを発表
- ② 暮らしやすい町につながる工夫を考える。
- ③ 発表
- ④ 振り返り

視覚障がい

- ・音声案内の場所を増やす
- ・点字ブロックを増やす
- ・点字表記を増やす
- ・困っていたら声をかける

車椅子

- ・学校にもエレベーターを設置する
- ・階段以外にも手すりをつけたらいい
- ・スロープを増やしたらいい
- ・困っていたら声をかける


実際に障がいのある方に聞いてみよう！
疑似体験をしてみよう！